

芦屋市震災復興10年事業 「市民ワークショップ」実施業務

報 告 書



平成16年9月

芦 屋 市

目 次

1. 市民ワークショップの目的	1
2. 市民ワークショップの進め方	1
3. 市民ワークショップの開催概要	3
4. 中学校区別ワークショップのまとめ	4
「震災復興 10 年をふりかかって、思うこと、感じること」のまとめ ..	5
第 1 回 山手中学校区	9
第 1 回 精道中学校区	12
第 1 回 潮見山手中学校区	16
震災前の芦屋で気に入っていたことは?	18
この 10 年を振り返って一番印象に残っていることは?	20
5. 全体ワークショップのまとめ	23
※ 参考資料等	27

1. 市民ワークショップの目的

震災からの復興 10 年の道程をふりかえり、今後の芦屋市のまち・人・くらしが活気に溢れ、さらに発展していくことを目的とした取組みのひとつとして、公募市民や団体推薦市民、公募職員が一同に会して、ワークショップ手法による意見交換を行なう中で、市民の視点から震災復興を捉え直し、震災復興に関するそれぞれの思いを共有するとともに、その後の 10 年の復興過程を含む市民防災や市民参画・協働のあり方等々を検証し、今後 5 年、10 年の行政運営に資するものとするために「市民ワークショップ」を開催する。

また、行政ではない第三者的なコーディネーター、ファシリテーターによる「市民ワークショップ」をすることにより、今後の市民と行政の役割分担や、行政の取り組みの優先順位などについて、活発な意見交換が行なえる環境を作り、今後の協働と参画の礎となるとともに、今後の施策（芦屋市総合計画後期計画）へ反映していく基礎資料を後半に集積する。

2. 市民ワークショップの進め方

山手中学校、精道中学校、潮見中学校の各中学校区ごとに開催することにより、より活発な意見が出やすい環境をつくるとともに、それぞれの体験や教訓を出し合い、それぞれの被災体験と 10 年の復興過程への感じ方の違いを検証する。

各中学校区ごとのワークショップ後に、震災復興 10 年を振りかえり、今後の芦屋市のまち・人・くらしの活性化に向けて将来に活かしていくべきことをテーマに全体ワークショップを開催する。

●各回のプログラム

第 1 回 あなたにとっての震災復興とは（地域別）

1. はじめに（20 分）

- *主催者あいさつ、趣旨説明
- *『まち・人・くらし活性化推進アンケート』中間報告
- *本日の流れの説明

2. 同じテーブルの参加者を知ろう（20 分）

- *他己紹介（『他己紹介聞き取りカード』を使って 2 人組みでインタビュー）
 - ・現在のお住まいとそこに至るまでの経緯
 - ・震災前の芦屋で気に入っていたこと
 - ・震災 10 年を振り返って一番印象に残っていること

3. 震災復興 10 年を振り返って（50 分）

- *震災 10 年で変わったと感ずること
 - ①暮らし・コミュニティ・防災（意識）
 - ②健康・福祉・医療
 - ③住まいとまちなみ
 - ④にぎわい（商業）・文化

*震災復興の過程で生まれた新たなもの、こと、動き（休憩）お茶を飲みながら発表者を決める（5 分）

4. グループ発表（20 分）

- *各グループで話し合われたことの発表

5. 終わりに（5 分）

- *次回のお知らせ

第2回 芦屋市の震災復興10年を振り返って

～まち・人・暮らし活性化に向けて、将来に活かしていくべきこと～ (全体)

1. はじめに (10分)

- *主催者あいさつ
- *本日の流れの説明

2. 前回の振り返り (15分)

- *各地域で出された意見のふりかえり
 - ・各地域で共通の意見
 - ・各地域で特徴的な意見

3. 芦屋の“まち・人・暮らし活性化”のためにこんなことが大切、必要! (70分)

- *簡単に自己紹介
- *芦屋の“まち・人・暮らし活性化”のために大切だと思うこと
 - ①暮らし・コミュニティ・防災 (意識)
 - ②健康・福祉・医療
 - ③住まいとまちなみ
 - ④にぎわい (商業)・文化
- *震災復興の過程で生まれたと思う、新たなものやこと、動きの中で大切にしていきたいこと

(休憩) お茶を飲みながら発表者を決める (5分)

4. グループ発表 (20分)

- *各グループで話し合われたことの発表

5. 全体で意見交換 (20分)

- *各グループの発表を聞いて、全体で意見交換
 - ・感想、補足したいこと
 - ・特に大事にしていきたいこと

6. 終わりに (10分)

- *本日のまとめと今後のスケジュール
- *あいさつ

3. 市民ワークショップの開催概要

「市民ワークショップ」の開催概要は以下のとおりである。

	目的/場所	参加人数	内 容
第1回	2004年8月21日(土) 9:30~11:30 芦屋市役所分庁舎 2階大会議室	20人	あなたにとっての震災復興とは (山手中学校区)
	2004年8月21日(土) 14:00~16:00 芦屋市役所分庁舎 2階大会議室	26人	あなたにとっての震災復興とは (精道中学校区)
	2004年8月28日(土) 9:30~11:30 芦屋市役所分庁舎 2階中会議室	15人	あなたにとっての震災復興とは (潮見中学校区)
第2回	2004年9月11日(土) 14:00~16:30 市民センター 401室	20人	芦屋市の震災復興10年をふりかえって ~まち・人・くらしの活性化に向けて、 将来にいかしていくべきこと~ (全体)

「市民ワークショップ」の様子



4. 中学校区別ワークショップのまとめ

- ①全ての中学校区で、「暮らし、コミュニティ・防災意識」に関する意見が一番多く出された
- ②震災直後は人のつながりやコミュニティの大切さを実感したが、現在は地域のつながりが薄くなっていると感じている人が多い
- ③同様に、震災で防災意識が高まったという意見と、現在は防災意識が低下しているという両面の意見が出されている
- ④防災倉庫に関する関心（もっと活用しよう）が高まったという意見や防災訓練に対する意識や自主防災に関する活動が始まった、といった意見が各中学校区で出されている
- ⑤地域活動への関心や参加意識、また役員の固定化・高齢化など地域組織の抱える課題などに対する関心が高く、それらに対するそれぞれの地区で始まった新たな動きやアイデアがそれぞれの地区で出されている
- ⑥高齢者の増加に伴い、福祉や医療に関する意見は各中学校区で出されている
- ⑦各中学校区に共通して、商店街等のにぎわいがなくなっているという意見が見られた
- ⑧住まいやまちなみの変化に関する意見は、区画整理や再開発が行なわれた精道中学校区に多く見られた
- ⑨古いお屋敷や屋敷林など芦屋らしい町並みがなくなったという意見は各地区で見られた
- ⑩マンション問題は、まちなみの変化と新住民の増加といった地域のコミュニケーションの両面があげられている
- ⑪まちの緑が減ったという意見の一方で、花を飾る家が増えたという意見も見られた

各中学校区で出された意見を、「暮らし、コミュニティ、防災意識」、「健康・福祉・医療」、「住まいとまちなみ」、「にぎわい（商業）・文化」の各テーマごとに整理すると次頁以降のとおりである。

また、各中学校区におけるワークショップの各グループの模造紙のまとめも参考に添付する。

◆『震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること』のまとめ

●暮らし・コミュニティ・防災意識

<p>人のつながり コミュニティ</p>	<p>*日常からの人のつながりが大事⇒普段からふれ合い、地域のつながりをつくっておかないと、震災時に機能しない</p> <p>*震災で知ったこと。行政の活動立ち上がりは遅くなる。まずは地域社会における住民自身が団結！！</p> <p>*震災直後は、住民の絆がしっかりしていたが、最近薄れてきてしまった (震災当時の助け合う気持ちはどこへ?)</p> <p>*震災で人のつながりの大切さを感じたが、10年経った今、薄くなってきているように思う</p> <p>*自治会の活躍が大切な事を痛感した。近所のことは行政に頼らず、自分たちで助け合うのがよい</p> <p>*コミュニティの大事さを実感された方が、ボランティア活動をするようになった</p> <p>*震災時に、若い人の参加のきっかけはあったが…… *もっと三世代が交流できるまちに……</p> <p>○マンション(新住民)問題</p> <p>*他地域から来られた人が多い中で、どうコミュニケーション(地域のつながり)をつくっていくか</p> <p>*マンションができ、近隣の関わり合いが少なくなってきている *自治会活動もマンションは困難…</p> <p>*昔からの住人と新しい住人とのつながりが無い (人との付き合いが難しくなった、住んでいる人が分からなくなった)</p> <p>*震災を知らない、経験していない人が増えたように思う</p>
<p>地域の組織のつながり</p>	<p>*コミスクやボランティア活動が組織的に機能するようになってきた</p> <p>*コミュニティ組織の一元化(協力体制の統一)←そのためには、行政の窓口の一元化(横のつながり)</p> <p>*全住民団体の協力、共同体制がまちの活性化に必要(まちぐるみの取り組みが必要)</p>
<p>地域活動への関心 参加意識 わがまち意識 ふるさと感覚</p>	<p>*子供は学校だけでなく地域で育てるものだと思うのに地域に関わろうとする親が少なくなった ⇒子ども会の弱体化</p> <p>*地域で活動する人はいるが、参加する人がいない *人まかせ(自分も協力するという意識がない)</p> <p>*ボランティアの意識が高まった(自然体で)</p> <p>*気軽にいろいろなボランティアに取り組めるようになった</p> <p>*地域活動に関心を持つようになった。近隣と仲良くなった。</p> <p>*地域の環境づくりには、多くの協力者が集まるようになった(環境への意識アップ)</p> <p>*該当エリア外からも、落書き消しなど参加</p>
<p>地域の組織の抱える課題</p>	<p>*中心メンバーの固定化、高齢化 *地域の役員のなり手がいない</p> <p>*各組織に参加するメンバーの固定化</p> <p>*組織に新しい人の参加を！ *40~50代中心に、地域で連帯する必要あり</p> <p>*中間層の方が地域に出てこられない(あまりいない?)</p> <p>*地域が中心のまちづくり、人づくり←後継者は?</p> <p>*世代間交流をどうつづいていくのが課題!</p> <p>*まちづくりの世代交代が今後の課題 *活動資金難(自治会など)</p>
<p>課題解決のためのアイデア 新たな動き</p>	<p>*若い参加者を引き込むキッカケ *人が出て来易い行事を!</p> <p>*地域づくりには女性の力が大切! *男性の参加を!(地域での居場所) *まず奥さんを引っ張り込むべし</p> <p>*新しい公園に人が集まり、公園の世話で新しいコミュニティが生まれつつある</p> <p>*多くできた後援を通して、みなが集い話し合う場ができた</p> <p>*自治防災団がキッカケで、自治会活動に男性が参加するようになった</p> <p>*退職男性の活躍(メンズクラブ) *町内防犯(防災)意識が高まった→浜町メンズクラブ→夜の見回り</p> <p>*きっかけ(呼びかけ)が必要。←地域のニュースで知らせる</p> <p>*新しいコミュニティグループが誕生した *市民協働を継続していくためのシステムが必要</p>

防災意識 防災倉庫	<ul style="list-style-type: none"> * 自主防災組織など、地域での防災意識が高まってきたかも… * 自主防（災組織）の設立が大切！ * 町内で防災組織を立ち上げたが、現在機能していない * 防災意識もある反面、薄れていっている部分もあると思う * 防災意識は育っているように思うが、備えはしているのかどうか疑問（心配） * 市で行われている訓練に参加するとしても、 もう少し普段から気をつけなければ！（震災後）←忘れがちになっている！ * 自主防災の意識が芽生えた * 防災意識が増した * 最近、少し危機意識が薄れ始めているかも * 防災倉庫は整っているが、住民が使えるようにはなっていない。もう少し意識を持って参加すべきだと思う * 阪神大震災のような事が起こったら防ぎようがないと感じます。財政難の中ではありますが、もう少し防災倉庫を充実させていただきたい * 防災倉庫の利用。コミュニケーションにももっと活用しては？ * 防災倉庫をもっと地域の人に知ってもら * 防災訓練が年1回行なわれているが、防災倉庫の設備をどのように活用していくかを、もっと利用して行ってほしい
その他	<ul style="list-style-type: none"> * 犬のマナー悪い、犬のフンの始末など、モラルの低下 * 犯罪の増加 * 働く女性が増えた * 交通の便の格差

●健康・福祉・医療

健康	<ul style="list-style-type: none"> * 市民検診などがあり、健康に対する意識が高まったように思う * もう少し、地域での健康づくりの機会を！（体力測定の出張測定）
医療	<ul style="list-style-type: none"> * 医療機関が増えて安心 * 市民病院、南芦屋浜病院は、遠すぎて不便←→ * 2つできて便利になったと思う * 芦屋病院の存続は必要！ * 医療について芦屋病院の不評 * 市民病院→医療の充実を！（財政難？） * 医療費が高くなった
福祉	<ul style="list-style-type: none"> * 老人ホームの利用が増えた（サービスをする人が増えた） * 以前に比べて、お年寄りを多く見かける * シーサイドにとって高齢化社会にどう対応するか。今後の大きな課題。（高層地区の老人対策） * 福祉に関心を持つ人が多くなった * 福祉に関するボランティアをする人が増えてきている * 高齢者が増え、ボランティア活動が要求されているが、若い人の参加が少ない（共働きで） * 若い世代を呼び込む対策 * ボランティア意識の高揚を考えてほしい⇒若い人の参画 * 高齢者の方々の集いが多くなったように思うが、その場にも参加されない方が気になる…… * 福祉については今後考えるとしても、もっと高齢者の自立を指導すべきである（健康も含め） * 育児支援、高齢者施設（財政難？） * 高齢者の福祉の見直しー適切に行なわれているのか * 最近は福祉の予算が少なすぎる（* かつては、国の基準に上乗せして、福祉も充実していた。財政的にも…震災で…） * 町並みのバリアフリー化が進んできている

●住まいとまちなみ

<p>まちなみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> * マンションが増えて街並みが変化した * マンション乱立で、雰囲気が変わった * マンション林立が今後のまちづくりのキーになる * 芦屋市、芦屋らしい雰囲気の崩壊は、マンション乱立と道路開発だと思う * マンションが増えた→大きなお屋敷が減った * テニスコートや野球場がマンションになった * 古い街並みなくなってマンションばかり。寂しいが、新しく芦屋に来る人には好評 * 古い家が少なくなった * 古いお屋敷が減った（特に屋根瓦）→マンション化 * 風格のある黒い瓦の家がなくなった * 所々に見られた日本家屋がなくなり、どこも同じような街並みになった * 新しい建物が増えた… * 古き良き時代の街並みが消えた * 大きな家が建っていたが全部壊れてしまい、一つの敷地に7軒建ったり、モータープールになったりして様変わりした… * 家並みが変化した！！（敷地細割に） * 駐車場が増えた（空地） * 空地が増えた * 町並みの変化（区画整理、公園、マンション……） * 町並みの変化にとまどいがある * ポケーっと見てる風景が以前と少し違う？ * 街は歩きやすくなったが、面白みが減った * 区画整理されて良いと思うが、若干、個性のない建物が並び、寂しさを感じる * 街並みは、震災前より美しくなった。津知町、前田町、若宮町等、過密住宅地域が良くなった * 街並みはきれいになってきているが、人とのつながりが薄くなってきている * 大きな道路やマンションでどんどん町が変わっていく。楽しみと不安がある→まちが分断される（コミュニケーション） * 南芦屋浜の開発が進み、素敵になりつつある（住まいや新たな街並み）。期待！（ヨットハーバー、人口浜…） * 芦屋の南側（JRより）の整備が進んでいる ⇔ * 芦屋の西側の整備が遅れているように思う
<p>公園</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 区画整理をされて道路が広くなり公園が大小たくさんできましたが、地域住民に公園の管理等全てまかされて大変です！ * 公園が多すぎて管理大変 * 花いっぱい→住民負担大きい * 防火水槽のある公園がたくさん出来た（知らない人も多いのでは？）
<p>緑</p>	<ul style="list-style-type: none"> * マンションが多くなり大きい社宅や家がなくなって、緑も少なくなってきた * 個人の庭の緑が減った * 花飾りの家が多くなった * 緑が増えた * 植木を多く植えて道が緑であればよいというものではない ○市民への緑化の啓発 * 生垣など、緑化に市民レベルで理解してもらえるように、市から広報を！ * 「落ち葉」ですぐ木を切ってしまう人が多い

●にぎわい（商業）文化

<p>にぎわい (商店街)</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 賑わい、寂れている（商業は活気がない） * 三八通りは寂しい * 商店街が少なくなって、本通りとか道が広くなりすぎて、賑わいがなくなっていると思う * 広い道路はできたけれど、本通など、賑わいは途切れているように思う * 商店（市場）がなくなり、寂しくなった（昔の賑わいなし） * 市場が消え、買い物の楽しさがなくなった * 山手商店街のにぎわいがなくなってきた * JR駅前商店街、三八通りや本通り商店街の立ち遅れが気になる * 商店街、市場などの形態が変わり、人口が少なくなったのでは？と思う * 当初のサービスセンターが寂れている * 大型店などで、小規模の賑わいはなくなったように感じる * 個人商店などの元気がない（震災前から） * 個人商店がなくなり、地域のふれ合いがなくなるように思われる * お店がなくなり、スーパーのような店が増え、対面販売がなくなって寂しい…… * 好きなお店がなくなった ⇔ * 町に新しい店が増えた（特に食べ物） * 臨港線沿いに色々な商業施設ができて、浜のダイエーが不振、ビデオショップなどがつぶれた * 賑わいの場所が移った * 震災、バブル崩壊⇒経済の低下 * 再建（お金）の跡継ぎ⇒店やめる * 年配で商売をしていた人は、店がつぶれたことにより再生できなくなった方は1人や2人ではないはず（浜センターなど）
<p>文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「町で文化的なイベントをできるだけ続けていきたい」と町会の集まり等で話し合うことが増えたように思う * 若年層の文化に対する意識が少なくなってきている * 自分の住んでいる町に対する意識が薄れてきている * 郷土意識やまちの誇りにできるものが必要 * ここに住んでよかったと思えるような文化（地域密着） * 夏祭りで、日本の盆踊りを復活したい（ゆかたとか…） * 文化を大切にしてほしい（手作りでもいい） * 使用料が高い！国際文化都市といいながら、財政難のため、使用料が高くなり文化が発達しにくい * 文化については、不況のために施設がクローズしていくのではないか * 文化都市芦屋として、美術博物館を良い形で残したい <ul style="list-style-type: none"> * 市民活動の場としてあってほしい * もっとPRを！！（色々あるよ！）

●その他

<p>行政への 思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 芦屋市を市民とともに再生しようという視点や切り口が明確になった * 住民自治が求められる（市民参画）反面、奉仕に対する協力が少ない * 市の財政の大変さをあちこちでアピールされている割には、よく理解していない人が多い * 市民の協力やアイデア提案で、財政難を軽減できるのでは？
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 芦屋市だけではなく、被災地外へ発信！ * 他県へ災害時の支援ボランティア体制の迅速化 * 県、市などで行政間の連携が取れるようになった

山手中学校区

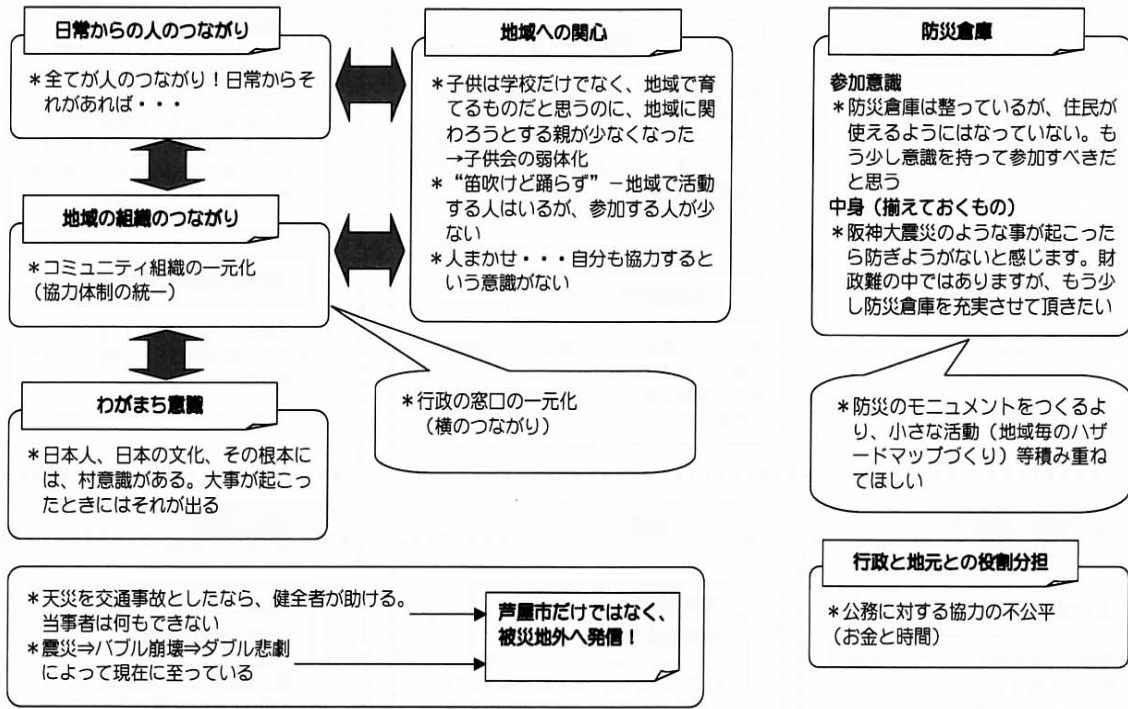
震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

1班

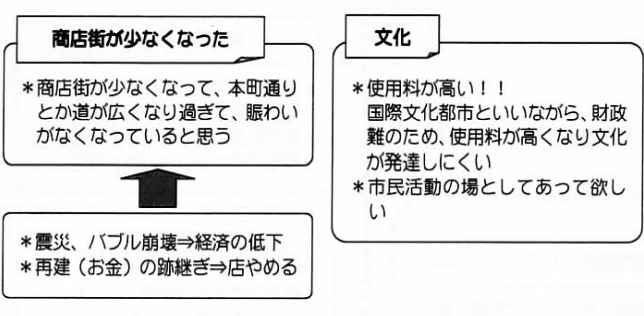
竹本、楠田、角野、桑田、寺田、吉川（計6名、敬称略）



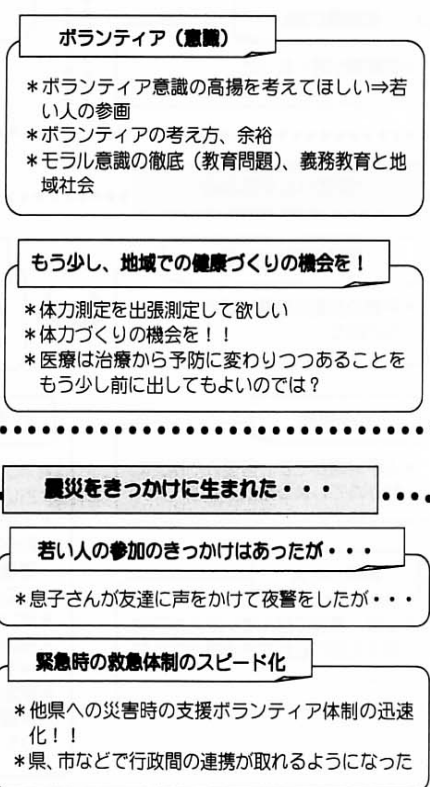
暮らし・コミュニティ・防災意識



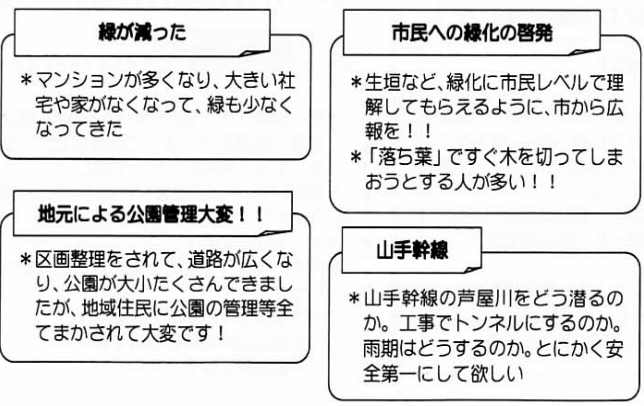
にぎわい（商業）・文化



健康・福祉・医療



住まいとまちなみ



山手中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

2班

重村、鄭、山内、廣利、大橋、中川、杉田（計7名、敬称略）



暮らし・コミュニティ・防災意識

コミュニティが薄くなった

- *三条小学校がなくなって、コミスク活動が少しもの足りない
- *大きな屋敷が取り壊されてマンションになった。その為に、今迄の近隣の関わり合いが少なくなってきた
- *ふるさと感覚がなくなった
- *震災直後は、住民の絆がしっかりしていたが、最近薄れてきてしまった

コミュニティが強くなった

- *コミスクやボランティア活動が組織的に機能するようになってきた
- *コミュニティについて一震災で仮設風呂ができ、地域の人達が順番で掃除などを協力したことで、三条のコミュニティが強まった

防災意識が強くなった

- *自主防災組織など、地域での防災意識が高まってきたかも・・・
- *防災意識は高まった。防災管理者資格を取得する

にぎわい(商業)・文化

賑わいがなくなっている

- *山手商店街のにぎわいがなくなってきた
- *市の財源となるべき事業が見込めないような商業地域が形成されている。肩を寄せ合うような商店街をつくるべき(三八通り)

好きなお店がなくなった

- *骨董品のお店が少なくなった
- *好きな鉄板焼屋さんで遠くへ引越した

健康・福祉・医療

高齢者も自立しないと思った

- *国際文化住宅都市としては、医療機関がお粗末である
- *福祉については今後考えるとしても、もっと高齢者の自立を指導すべきである(健康も含め)

医療費が高い

- *医療費が高くなった

行政

庶民的行政

⇨財政難でサービスの見直し

- *北村さん、山中さんに市長がかわって、庶民的な行政に変わって来た
- *財政難によって、今迄の市民サービスの見直しがされた
- *文化行政にまで見直しが必要となった

新しい動き

- ・岩園コミスク
- ・山手・岩園小学校

- *震災直後より、岩園コミスクは、スポーツや文化業が盛んになり、地域の子供会の活動が活発になった
- *山手、岩園小学校の設備の更新

市行政も変化

- *芦屋市を市民と共に再生しようという視点や切り口が明確になった
- *赤字財政に伴う市職員の意識変化やモチベーションの向上あり

住まいとまちなみ

整備が遅れている

- *芦屋の西側の整備が遅れているように思う

整備が進んでいる

- *芦屋の南側(JRより)の整備が進んでいる

山手幹線

- *山手幹線ができ、町並みが南北に分かれてしまった

マンションが増えて、町並みが変化した

- *マンションが増えた
- *古い家が少なくなった
- *「庭園都市」を宣言されているが、相変わらずマンション計画が多く、街並みの破壊と住民のコミュニケーションが取りにくくなっている
- *マンション乱立で、雰囲気が変わった
- *古いお屋敷が減った(特に屋根瓦) →マンション化
- *家並みが変化した!!(敷地細割に)
- *芦屋市、芦屋らしい雰囲気の崩壊は、マンション乱立と道路開発だと思ふ

転居した人

- *以前、芦屋に住んでいた人が西宮市や大阪へ転居せざる負えなくなった

南芦屋浜

- *新たな街並みの創成(ヨットハーバー、人工浜・・・)
- *水路の水スポーツ施設の充実

その他の思い

- *防災訓練が年1回行われているが、防災倉庫の設備をどのように活用していくかを、もっと利用して行って欲しい
- *夏祭りで、日本の盆踊りを復活したい(ゆかたとか・・・)
- *人が大切である!
- *開発、復旧を急ぎすぎた。もっと基盤をしっかりと!!
- 芦屋ブランドがなくなる
- 外の人は芦屋をどうみてる?
- 芦屋の魅力は?

山手中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

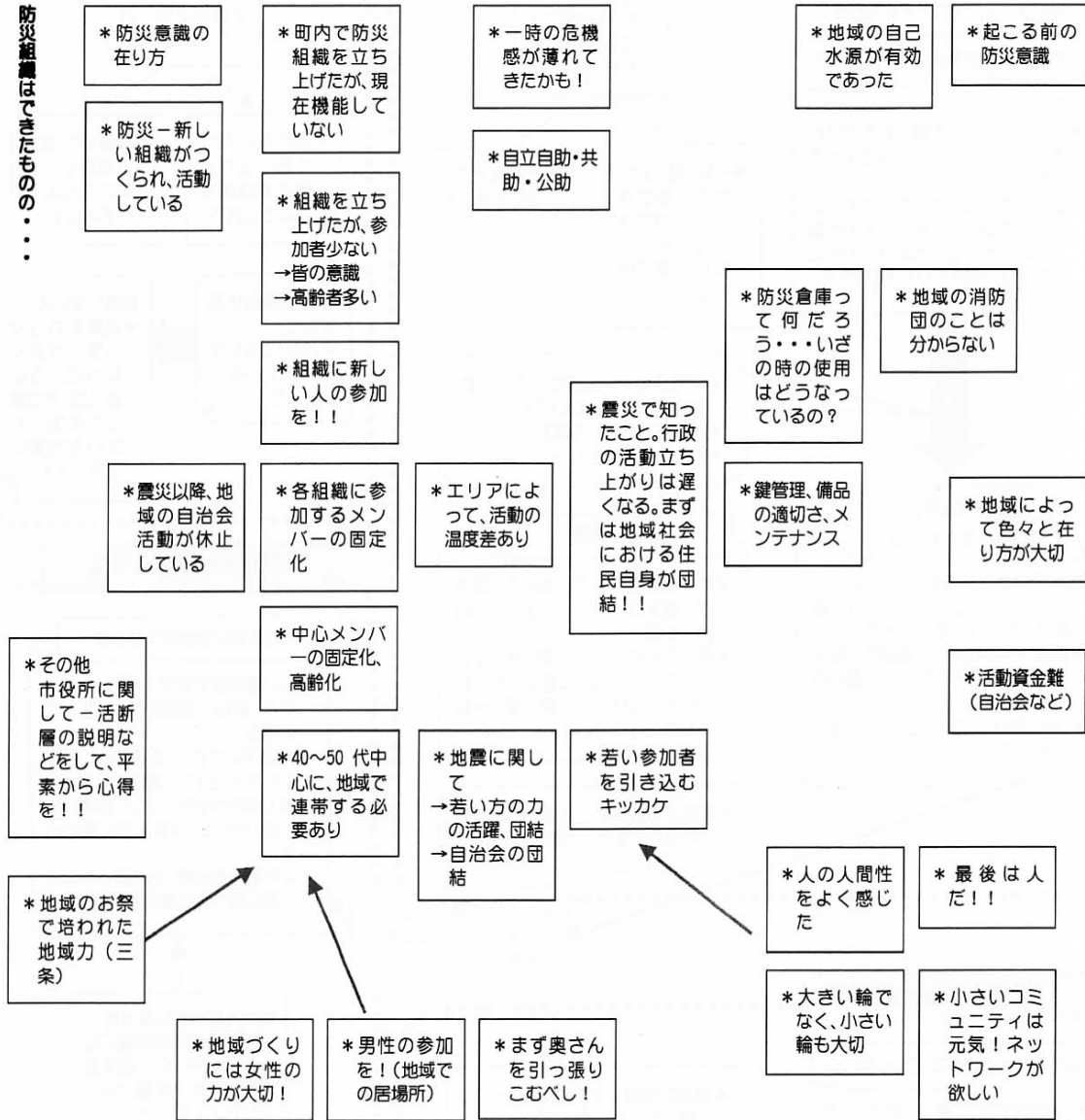
3班

助野、今村、竹内、宮崎、
中村、佐藤
安元（計7名、敬称略）



暮らし・コミュニティ・防災意識

防災組織はできたもの...



にぎわい（商業）・文化

- * 昔からのまちかどを、世代を超えて大切に！
- * 急ぎ足で頑張りすぎ？忘れ物は...

健康・福祉・医療

- * 医療について市民病院の不評
- * 最近、福祉関係の予算がなさ過ぎる！！

住まいとまちなみ

- * 新しい試みが生まれつつある。変化は〇×
- * もっと三世代が交流できるまちに...
- * 住環境の悪化
- * 地域社会とのつながり
- * ボケーっと見てる風景が以前と少し違う？
- * マンション林立が今後のまちづくりのキーになる！

その他

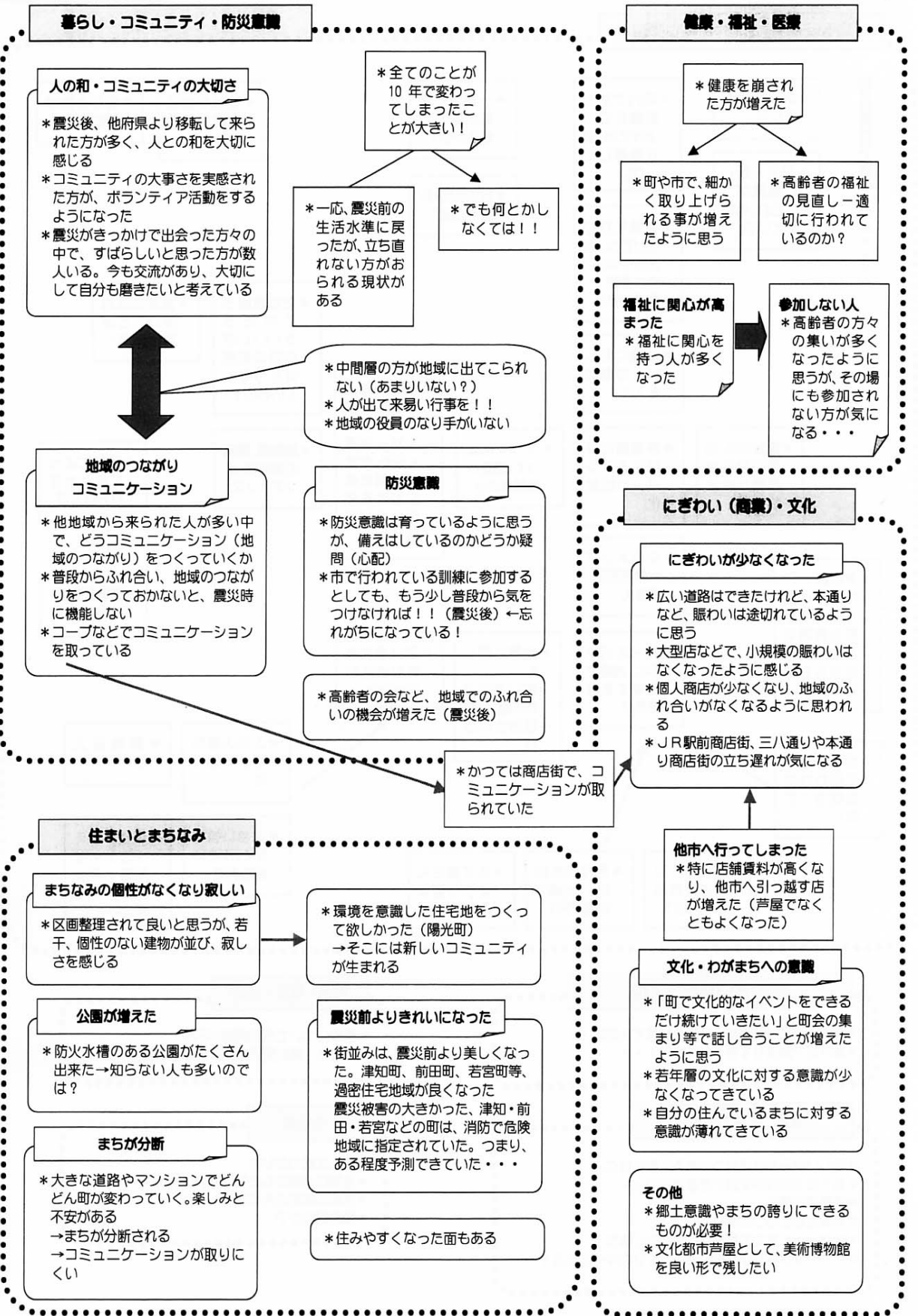
- * 個人主義の在り方
- * 品物は必要なものだけでいいと...
- * 生命の救助の大切さ
- * 精神的なケア

精進中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

1班

富田、藤田、石川、中谷、小林、吉川（計6名、敬称略）



精進中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

2班

加藤、榑井、中上、野口、久保田、中川（計7名、敬称略）



暮らし・コミュニティ・防災意識・生活マナー

防災意識高まった

* 自主防災づくりが始まった
* 市内の公園には、防災倉庫が建てられて、万が一の時には役に立つとのこと。何をどのように使うのか覚えておかななくては・・・

働く女性が増えた

* 女性で働く人が増えている

コミュニティづくりができた

* 区画整理で町のにぎわいが消え、静かになった。時々、子供さんが少なく寂しい
* 新しい公園に人が集まり、公園の世話で新しいコミュニティが生まれつつある

芦屋に新しい人が

* 新しい家族が増えた

自治会の活躍大事!

* 自治会の活躍が大切な事を痛感した。近所のことは行政に頼らず、自分たちで助け合うのがよい

震災のおかげで

* 震災は大変な事だけれど、相手の心、自分の心を見据えることができ、上辺だけの人間関係だったとつくづく思う
* 私は、人様も親切も嬉しかったけれど、人にする喜びも知った。→助け合いのすばらしさ
* 震災で残った緑も区画整理で消えて悲しい

犬のマナー悪い!

* 犬が多く大変です

でも決して昔を忘れてはいけない

* 震災前は、戦後の区画整理で道が3~4mあったが、現在は最低4m、コミュニティ道路は8m13mの所もあり、昔を忘れそうだが、忘れてはいけないと思う

住まいとまちなみ

公園・植木多過ぎる!!

* 公園が多すぎて管理大変!
* 植木を多く植えて道が緑であればよいというものではない

まちなみの変化

* 道が広くなった。家が小さくなった。
* マンションが多くなった
* 風格ある黒い瓦の家がなくなった
* 私のまわりは結構大きな家が建っていたのだが、全部壊れてしまっただけで、一つの敷地に7軒建ったり、モータープールになったりして、様変わりした・・・

バリアフリー

* 町並みのバリアフリー化が進んできている

新しい動き

お年寄りの方が元気!!!
* お年寄りの方が元気!

↑ ↓
* でも、見えない部分もある (出て来れない人たち)

* 伊勢町では、老人会でのやしができる活動を始めた

* 多くできた公園を通して、皆が集い話合う場ができた

にぎわい(商業)・文化

スーパーばかりで、年配のお店は再生できない

* お店がなくなり、スーパーのような店が増え、対面販売がなくなって寂しい・・・
* 年配の方で、商売されていた方は、店がつぶれたことにより、再生できなくなった方は1人や2人ではないはず・・・(浜センターなど)

文化施設の危機

* 文化については、不況のために施設がクローズしていくのではないかと

健康・福祉・医療

健康・福祉への興味高まる

* 福祉に関するボランティアをする人が増えてきている
* 健康のために、夜のウォーキングをされる方が増えてきた

保険などの充実

* 健康や福祉などは、5年前(?)に介護福祉ができ、喜んでおられる→国レベルで充実してきた
* 自分が10年の間に高齢福祉の恩恵を受けるようになり、多額のローンをかかえる身にはありがたい
* 福祉会館などまだまだ、気にしている

甘くならず自己責任も大事

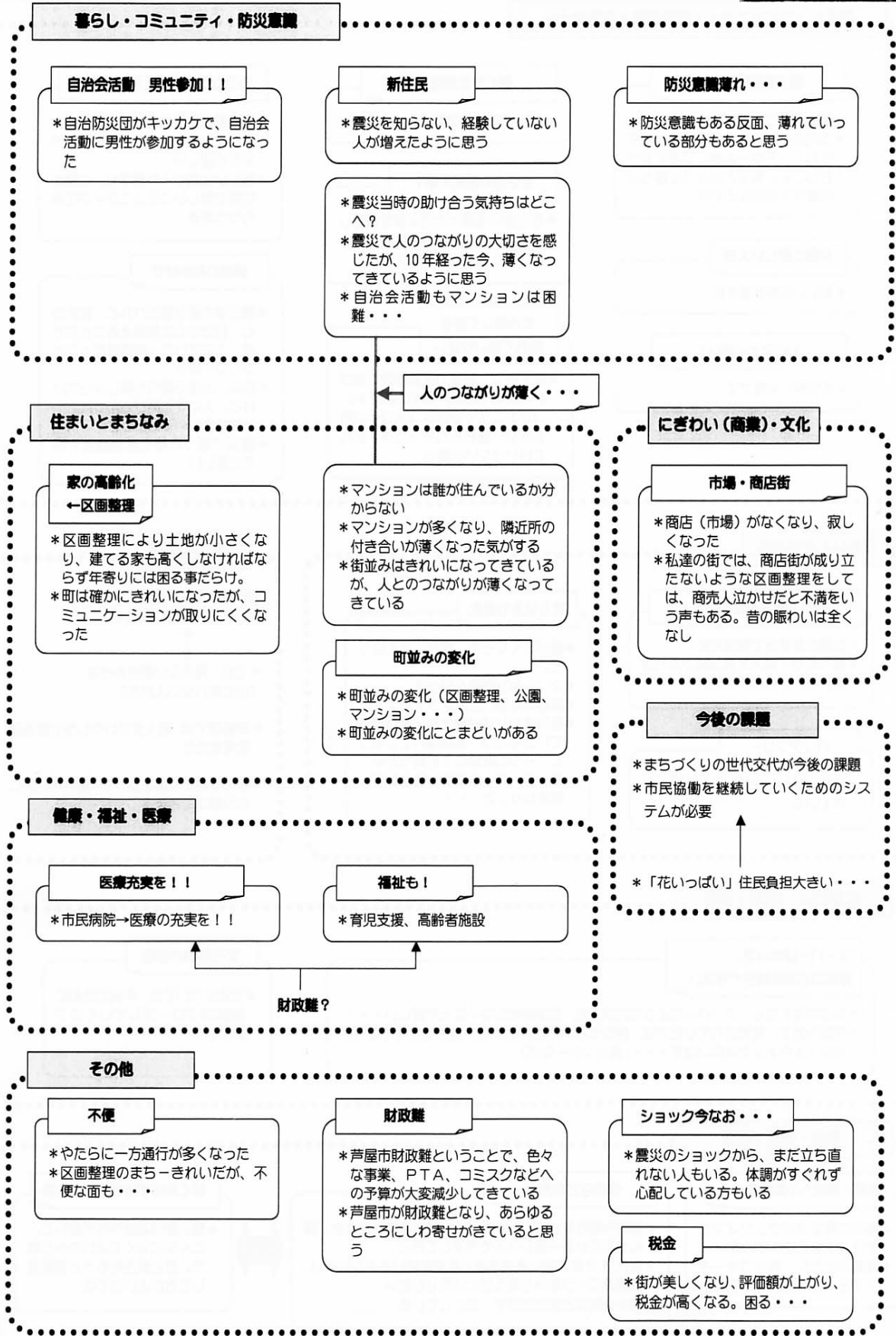
* 震災後は福祉が行き届いて、こんなに甘くてよいのかと思う。自己責任をもっと重要視した方がよいのでは

精道中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

3班

北村、釜井、木村、古藪、
中井
安元 (計6名、敬称略)



精道中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

4班

馬引、橋本、谷間、細谷、
円満堂、佐藤
杉田（計7名、敬称略）



暮らし・コミュニティ・防災意識

自主防災の意識が高まった

- *公園が整備され、防災倉庫などもできて、街の安全、日々の生活が守られるようになった気がする
- *自主防災の意識が芽生えた
- *防災意識が増した
- *防災意識が高い

新しい人との関係（住民）

- *マンションとそれ以外の人のコミュニティの創り方が難しそう
- *マンションや新しい家が建ち、つながりが薄くなった
- *隣どうしのつながりがなくなった
- *昔からの住人と新しい住人とのつながりがない
- *マンションが増え、街並みに魅力がなくなった
- *新しい人が増え、コミュニティが難しくなった
- *人との付き合いが難しくなった
- *住んでいる人が分からなくなった
- *コミュニティが壊れて、新たにコミュニティが生まれた

世代間交流

- *地域が中心のまちづくり、人づくり←後継者は？
- *世代間交流をどうつっていかかが課題！

参加意識の低下（形骸）

- *権利意識が増加し、責任に対する考え方が少ない
- *自分勝手な人が多くなっている
- *地域への若者の参加意識はどうか？

その他

- *犬のフンの始末など、モラルの低下
- *犯罪の増加

危機意識の薄れ

- *最近、少し危機意識が薄れ始めているかも

防犯組織の活躍

- *退職後の男の方の活躍（メンズクラブ）

健康・福祉・医療

高齢者が住みにくくなっている

- *高齢者が増え、ボランティア活動が要求されているが、若い人の参加が少ない（共働きで）
- *高齢者にとって住みにくい街になりつつある。出てこいボランティア！！

医療関係の充実

- *医療機関が増えて安心
- *エルホーム（老人福祉施設）ができて良かった
- *市民検診などがあり、健康に対する意識が高まったように思う
- *芦屋病院の存続は必要！！

まちなみ

- *駐車場が増えた（空地）
- *復興を急ぎ過ぎたのでは？（行政）

にぎわい（商業）・文化

人の流れの減少

- *商店街、市場などの形態が変わり、人の流れが変わり、人口が少なくなったのでは？と思う

店の増加

- *町に新しい店が増えた（特に食べ物）
- *店が増えた（飲食店）

行政に対する思い

- *行政のサービスが悪くなった
- *住民自治が求められる（市民参画）反面、奉仕に対する協力が少ない
- *市が赤字になったので、今後が不安
- *市営住宅建てすぎ
- ↓
- *商売がやりにくくなった
→コンビニ、大量販売店など
- *行政は市役所から外に出て仕事をするほうがよいのでは？

まち全体に対して

*昔からの芦屋らしさがなくなった

*お金持ちが少なくなって、寄付金が集まらなくなった

瀬見中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

1班

高井、竹内、柳田、斉藤、北中、北村、大橋、吉川（計8名、敬称略）



暮らし・コミュニティ・防災意識

震災で生まれた・・・

* 地域の人々とのつながりの大切さを実感。
* 震災後、人々のつながりが深くなった。しかし、最近薄くなり、どうすればよいのか・・・

自治会

* 震災の後、自治会ができた。団地で2ヶ所。高浜2、高浜4団地。

防災・防犯意識

* 町内の防犯（防災）意識が高まった。→浜町メンズクラブ（現、50-60人）→見回り（夜）

地域活動への関心

* 地域活動に関心を持つようになった。近隣と仲良くなった。

* 遊んでいる子供達の声を聞くことがなくなった

人口減・子供減・高齢化

* シーサイドの居住者の増減
* 子供が減った→人口減 OR 高齢化→コミュニティの対応要
* 新しい街（南浜）との付き合い

まちぐるみの取り組みが必要！

* 全住民団体の協力、協同体制が街の活性化に必要。

きっかけ
* きっかけ（呼びかけ）が必要。
←地域のニュースで知らせる

ボランティア

* ボランティアの意識が高まった（自然体で）
* 気軽に色々なボランティアに取り組めるようになった

防災倉庫をもっと使おう！

* 防災倉庫の利用。コミュニケーションにももっと活用しては？
* 防災倉庫をもっと地域の人に知ってもら

* 護岸の落書きを住民の力で消去した！

* 何故、ボランティアが増えないのか

健康・福祉・医療

高齢化対策

* 老人ホームの利用が増えた（サービスをする人が増えた）
* 以前に比べて、お年寄りを多くみかける
* 高層地区の老人対策
* シーサイドにとって高齢化社会にどう対応するか。今後の大きな課題。

* 芦屋らしさがなくなった（福祉の面）

若い人を呼び込む

* 若い世代を呼び込む対策。学校、手当て、市民病院充実。

* 芦屋病院
・内容（？）
・交通アクセス

* かつては、国の基準に上乘せして、福祉も充実していた。財政的にも・・・震災で・・・

住まいとまちなみ

古いまちなみがなくなった

マンションが増えた
* 新しい建物が増えた・・・
* マンションが増えた→大きなお屋敷が減った
* テニスコートや野球場がマンションになった
* 古い街並みなくなってマンションばかり。寂しいが、新しく芦屋に来る人には好評。

* 街は歩きやすくなったが、面白みが減った

交通の便の格差

* 市内で交通が便利な所と不便な所に差がある → * 人の行き来（交流）ができるようになる

空地

* 空地が増えた

花が増えた

* 花飾りの家が多くなった

にぎわい（商業）・文化

商店街・市場がなくなった

* 商店（街）がなくなった
* 市場が消え、買い物の楽しさがなくなった

文化

* 文化を大切にしてほしい（手作りでもいい）
* もっとPRを！！（色々あるよ！）

* ここに住んでよかったと思えるような文化（地域密着）

* シーサイド地域に銀行がなくなった不便さがある
* 市民サービスセンターがなくなった
* 当初のサービスセンターが寂れている
* 賑わいの場所が移った

潮見中学校区

震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

2班

松尾、前田、守上、横山、
佐野、吉田
安元（計7名、敬称略）



暮らし・コミュニティ・防災意識

防災意識の低下

- *時間の経過と共に、防災意識の低下が感じられる
- *防災意識がだんだん薄れていつている
- *防災意識は、一般の人達には多分ほとんどない
- *防災倉庫-防災訓練を詳しく知らない

防災支える地元組織

- *自治会役員が重要！！
- *自主防（災組織）の設立が大切！

新しいコミュニティ

- *新しいコミュニティグループが誕生した
- *震災前後で同じ所に暮らす場合には、小さな規模でコミュニティが形成されたように思う
- *仮設住宅に震災後居住していた中での体験！コミュニティは、強力ですごかった

ライフラインへの意識も

- *ライフラインの大切さが消えてきた

環境への意識UP

- *地域の環境づくりには、多くの協力者が集まるようになった
- *該当エリア外からも、落書き消しなどに参加

ご近所付き合い続いている

- *近所の助け合いができ、その後の友情は続いている

住まいとまちなみ

緑ふえた

- *緑が多い！！

個人の庭の緑減った

- *個人の庭の緑が減った！！

古き良き芦屋が消えた

- *マンションが増えた
- *所々に見られた日本家屋がなくなり、どこも同じような街並みになった
- *一戸建ては、建替えや転居が続いた
- *南芦屋浜の開発が進み、素敵になりつつある（住まいや街並み）
- *古き良き時代の街並みが消えた

南芦屋浜

- *素敵になりつつある。期待！！

三八通り

- *新しい街並みの道路幅が必要以上に広すぎるように思う（三八の横）

にぎわい（商業）・文化

寂れた商業

→三八、ダイエー、個人商店

- *賑わい、寂れている
- *商業は活気がない

- *三八通りは寂しい
- *賑わい-臨港線沿いに色々な商業施設ができて、浜のダイエーが不振、ピテオショップなどがつぶれた
- *個人商店などの元気がない（震災前から）

健康・福祉・医療

市民病院など立地不便

- *市民病院、南芦屋浜病院は、遠すぎて不便

- *2つできて便利になったと思う

市の財政難

市財政難

- *財政難になった
- *市の財政の大変さをあちこちでアピールされている割には、よく理解していない人が多い

市民協力で！

- *市民の協力やアイデア提案で、財政難を軽減できるのでは？

- *震災が原因の1つ

●震災前の芦屋で気に入っていたことは？

<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築がなくなった ・住めば都 ・山、海、川といった全体の環境（阪神間）
<p>子供は4才と7才（震災当時）。松ノ内公園、朝日ヶ丘公園が子供の遊び場所に適していた。自然に恵まれている。便利である（買い物や遊びなど）。</p>
<p>生活のしやすさ</p>
<p>現在よりも緑が多かった。</p>
<p>もっと豊かで穏やかでのどか。</p>
<p>従来芦屋、芦屋の文化など</p>
<p>落ち着いた雰囲気があって、大きなお屋敷があった。現在、そこはマンションになった。</p>
<p>色々な年齢層の方が住んでいた（バランスよい）。→家族的で落ち着いた（何世代も続く家族）。</p>
<p>2号線、骨董品の店がお気に入り。尼崎に生まれ育った。阪急線沿いが気に入っている。</p>
<p>落ち着いた街並み。</p>
<p>落ち着いた街並み</p>
<p>ケーキ屋さん</p>
<p>環境が良い所。</p>
<p>街並みのキレイさ。完成された美しさ、静けさ。→それをみんなが大切にしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・街並を市民の方々が守ってきているということ ・静かな芦屋だということ
<p>静かで古い住居が多く、落ち着いた佇まいがよかった。</p>
<p>静かな所。</p>
<p>自然が近くにあること。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ロックガーデンと芦屋川→自然 ・落ち着いた雰囲気
<p>緑に囲まれた芦屋の住居の構え方。ゴミの整理も良かった。芦屋ブランドを気に入っている。芦屋川が好きで、町中に川が流れていることがすばらしい。2号線より山並みのすばらしい眺めが気に入っている。</p>
<p>文化都市芦屋にふさわしい文化（歴史を含む）と人々の付き合いがあった。</p>
<p>静かな環境。</p>
<p>和風の街並→ガラッと変わった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・緑が多いこと

・交通の便がいいこと
環境について他市より早くやってくれている
静かなこと
生まれた時から家なので別になし
転勤が多くて、芦屋について考えることがなかった。
自分にとって居心地のいい所（他所に移らず）
都会でありながら、古い街並や洋館があり、交通の便もよく、友達がつくりやすい
市場があったこと
古い町並が好きだった
神戸からみていて、道路の端まできれい。住んでいる人の心がきれい。印象強い。
大きなお屋敷や街並み（=景観）、人のつながり（人間関係）。*西国街道
市が金持ち
<ul style="list-style-type: none"> ・昔からの街並みでよい ・市が金持ち ・友達が多い
きれいな町。人があたたかい。
教育。その他に意識が高いと聞いていました。
イメージ。あこがれ。
最近、交通の便がよくなってきた。緑多い→住環境がよい。マンション→テラスハウス。
30年以上、芦屋でお仕事。ゆっくりした町。よい環境。
のんびりした雰囲気。古い街並みと新しい街並みが両方ある。特に、古い街並み。
昔の街
三八通の賑わいが懐かしい。
自転車であちこち行ける。落ち着いた雰囲気だったこと。
古い街並み（芦屋川沿い）
環境
①剪定の車がよくきていて、町並みがきれいだったように思う。
②市の市民に対するサービスが全体によかった。
何とはなしに、レトロ（昔の感じ）な雰囲気があった。
古き良き時代に建てられた家屋がある町並み。
静かな住環境
阪神間の環境のよさ（山と海、文化、歴史）。落ち着いた町。

●この10年を振り返って一番印象に残っていることは？

・怖かった（天災はこんなものかと） ・まちなみが変わってしまった ・今後どうしたらよいか
 ・直後は、全然知らない人同士でも挨拶があった。お互い、助け合いの気持ちがあった。本来、皆持っているはず・・・でも時間と共に・・・

・三条小学校がなくなった。 ・教育関係と町民のコミュニケーション ・地域と一体化

・財政難 ・新しい人との関わり

震災前から同居していた両親と新しく再建した家で、短い期間でも一緒に暮らせたこと。

・マンションが多い ・公園が増えて、管理が大変。地元管理は大変 ・財政難のため、補助がなくなる

道路の道幅が増えた。細い道が区画整理されてきた。山手幹線の工事が進んできた。できるだけ公害のない町になってほしい。

JR 沿いの橋の建設によってレモンの木がなくなって、きれいな橋が再建設されたこと。

震災時は苦楽園の自宅であった。子供がタンスの下敷きになったが、元気で4年生になっている。今は、何に対しても「おかげさまで」との気持ち。現在、子供2人。

震災直後の混乱した街の復興、復旧。

芦屋市らしい街のたたずまいが崩れつつあること。

西神は仮設がなくなってNTの人口が増加しましたが、ここはどうでしょうか？

震災の事。

あの震災から立ち上がって今日まで立ち直した人の力（パワー）に感動！！

・人と人とのつながりの大切さに気づいたこと ・パワーはすごい！！

以前の古い家がなくなり、小さな家やマンションなどが建ち、環境が変わった。

近所の方との交流が深まった。

震災当時のこと。

・転居 ・父の仕事（震災をきっかけに高齢者向け、うたう活動）

会社（事務所）が壊れて、事務所を現地へ。人との交わりが大切なことを沢山勉強した。

復興住宅に移られたお年寄りの方々の将来が気になります。

マンションなどの集合住宅が増えた。

震災がきっかけでボランティアをはじめた（高齢者のケア）。

町はきれいに復興したが、各個人、防災についての意識はあるのか？（忘れてしまっているのでは？）気になる。また、地震が来ると言われているのに

区画整理後の人間関係

・道が広がった ・同じ家が建った（前は情緒があったのに） ・マンションが増えた（屋敷跡が）

家の周りの状態（家が多くなった）

地震に耐えたり、子供達の成長です（結婚して孫ができたこと）

震災後、疎外感があったのがなくなった。ボランティア活動たくさんしている。

震災で、自分の中でストップしたものがあある。震災は、大きなもの。大き過ぎる。	
震災後の子供の学校のこと。両親の入院などが大変だったこと。	
お年寄りが多くなってきた	
震災で、全壊しあちこち引越す。まさか奈良に住むとは・・・？犬と猫が住める場所を探して、奈良に住むことになった。親切にして頂きありがたかった。(1年半)	
街が寂れたこと	
震災は大きな出来事。復興への人のパワー、つながり。	
・マンション、お店（食べ物）が増えた ・古い街並みが新興住宅地のように・・・	
・マンションが多くなり、昔の街並みがなくなったこと。 ・メンズクラブの結成あり。町の男の方が行動を起こす。	
マンションが増えて街並みが変わった	
町はきれいになったけど、人との付き合いが薄くなった。	
最近になって、他所から来られた方々との付き合いが難しくなりました。	
ダイエーの集客力が落ちたこと。広い道路。	
芦屋浜の街並みが元に戻った。現在、仕事をしているが、地域の震災対策委員をしたりして、近隣との付き合いが深まった。	
マンションが増えた。お屋敷がなくなって寂しい。 10年間経って、震災に対する想いが薄くなっている部分がある。	
町並み。整然として整理されてきた。	
町はきれいになったけど慣れていない。道路や公園は出来たが、芦屋全体としてみると、コミュニケーションが昔ほどとれていない。新しい方が入ってきた（シーサイドタウンも3分の2ほど変わったのでは？）一番心配なのは、ダイエーなどの店の撤退。子供も減っている（小学校2クラス）。	
・子供達が成長して、100人→20人（子供会） ・小中学校。 ・震災での家の被害。	・町が都市計画で人工的な美しさになった ・家族構成が変わった（夫婦のみとか）
・都市整備されたこと。 ・建替えをしたこと	・南の地区が緑が多く、きれいになった。 ・まわりの人々の様子が変わった（かえて人と交流するようになった）
学生時、建築関係ボランティアとして参加。コミュニティーづくり、畑づくりのボランティア。 老人が多いので、先が心配（南芦屋浜）。	
元に復興した事。	
震災後のボランティアの人達との交流を通じて、色々考えさせられた。	
人との交流がないように感じる。	
震災直後、各地から集まった方々をコーディネートする人がいなかったことを残念に思ったこと。	
毎日忙しかった。	
H7年3月に息子の結納が無事できた。	
転居（3年前、震災もきっかけのひとつ）と、高層化した町。	

5. 全体ワークショップのまとめ

- ①「暮らし、コミュニティ・防災意識」において、地域の人をつながりをもつていくことが、各グループ共通の関心であった
- ②その中でも、若い世代の地域活動への参加や世代間交流が共通した悩みのようなものである
- ③そのきっかけとして、公園を人をつながりやコミュニティをつくるきっかけとしてという意見が、共通して出ている
- ④その他、子どもを通してという視点から、学校や子ども会を核に人をつながりをつくることはどうかという意見がでていた
- ⑤防災活動を通じたコミュニティづくりとして、防災倉庫の活用が両グループから提案されている
- ⑥マンション、その中でも特にワンルームマンションの増加が地域にあるコミュニティ形成に影響を与えているようである
- ⑦「まちなみ」においても、マンションの増加があげられており、その中で、マンション周辺の緑化に関する提案があった
- ⑧大きなお屋敷など芦屋らしいまちなみがマンションに変わってしまった中で、低層住宅と調和の取れた住環境づくりやまちなみに替わる文化を残せないかという提案があった
- ⑨にぎわいづくりの工夫として、個人商店が連携して宅配サービスの組織の結成や地域マネーなどの活用があげられている
- ⑩震災の経験を“伝える”“発信する”ことが大切である
- ⑪その他、財政難を市民と一緒に乗り越えるために市民参画の市政の必要性も指摘されている

全体ワークショップで出された意見のまとめは、次頁以降のとおりである。

芦屋の“まち・人・くらしの活性化”のためには こんなことが大切、必要！

1班

吉田、楠田、加藤、円満堂、
千葉、久保田、竹内、釜井
吉川、安元（計10名、敬称略）



まず・・・発信！

- *震災で感じたことを、これからの生活に活かしてもらうため、“伝える”ことが大切である。（非難生活、再建、区画整理、仮設住宅での生活）
- *芦屋市から外へ、この経験を発信！（これが一番大切！次に繰り返さないで！）

行政への願い

- *市民参画の市政→財政難を市民と一緒に切り抜けるなど

ボランティア情報

- *情報の一元集約、発信

魅力

- *地域活動への参加を呼ぶような魅力
- *地域にしかできないこと
- *広報（PR）のしかた、例えばHP

*きっかけをどうする？

暮らし・コミュニティ

こんなことできないか？

学校

- *学校を母体に何かできないかしら？

若い親と年輩の方のふれあいの場

- *若い親と年輩の方がふれあい、話ができるような場をつくれなにか？

緑地、公園でコミュニティづくり

- *一度傷ついたコミュニティをどのようにしてこのように、いやもっと素晴らしいものにできるかを考えたい。
- *緑地や公園の整備などでコミュニティをつくる

地域の子育てを、高齢者にも助けてもらえないか

- *高齢者と子供たちを大切に
- *高齢者を見守る体制（地域活動）が取れるように

子供会の活動

- *地域活動に無関心の方が多く、なかなか活性化しないが、子供会とうまく取り組んでいく必要有り

- *まず、地域の様子や人を知る
- *まちが美しくなっても、人の心が美しくないと・・・若い子（高校生など）のマナーや身だしなみが悪い（注意していかどうか悩む）
- *地域のつながりの必要性（いざの時）
- *人のつながりの薄さは、現代の生活の表れではないか。否定より、そこから新しいものを生んでいくことが必要！

地域組織の対立

- *芦屋市は、住民にまかせるだけでなく、少し自分で動いてほしい
- *町協議会と自治会が反目状態である（それをつくったのは行政である）

マンション

- *マンションが増えた分、人の顔が見えなくなった。鉄の扉に閉じこもり、井戸端会議が少なくなった
- *中央部（茶屋の町、大樹町）に小さなマンションが乱立しているが、そのほとんどが単身用であり、地域住民の意識さえない人々が住んでいる実態がある！
- *ワンルームマンションは管理者常駐とし、その人に自治会に入ってもらい、その約束で建築してもらおう
- *ワンルームマンションが増えつつあるが（自治会には入らない）、そのことも含めた町づくりが必要！
- *芦屋市のコミスクというのは、自治会、老人会、子供会、PTA等に加えて文化やスポーツの団体も網羅しているものの、実際には数十人の幹事が全てを抱えている状態で、なかなか輪が広がらない
- *色々な組織が色々な所からの要望でできるが、動員されるのは同じ顔ぶれ（金太郎飴）。時間とエネルギーを使う割には効果は？→どうにかならないものか・・・

健康・福祉・医療

- *ボランティア活動も、福祉（助成が必要）、町づくり（コミュニティービジネス）、町づくり（有償ボランティア）に分けるのではないか
- *高齢化が高まる中、自立できる高齢者になるため（転ばぬ先の杖）、授業がもっと必要！

- *福祉ボランティアグループへの参加者は、50～60才代の方が多い。平日では、会議のために参加が不可能なこともある。若い人の意識が薄い
- *福祉も、校区や町によって大分差があるように思うので、福祉協議会などで活動が一本化された方がよいのではないか

*メンズクラブは理想的！どうやってつくる？（きっかけ）

住まい・まちなみ

- *マンションなど中層住宅と既存低層住宅のバランスが取れる住環境づくりを！！（地域に合った建築規制）
- *マンションの周囲の緑化→面積を大きくするなど、うるおいのある住環境づくりを！
- *町の美化も、財政難の時は、まず、一時花ではなく、緑を植えていきませんか？

防災・防犯

防災訓練

- *学校教育での防災訓練がもっと必要！
- *クッションを防災グッズにしておく
- *防災訓練を、日中だけでなく夜間訓練もしたい

防災倉庫の活用

- *各町で、防災倉庫の道具を使って経験しておくことが大切！いざという時にすぐ行動できるように！

防災倉庫単位での組織

- *マンション内の管理組合での防災訓練はあるが、地区とのつながりに欠ける→防災倉庫単位での組織ができないものか

防災活動を通じた コミュニティづくり

- *自主防災活動を通して、色々な活動を広げ、コミュニティづくりをはかる！

芦屋の“まち・人・くらしの活性化”のためには
こんなことが大切、必要！

2班

富田、前田、古藪、桑田、藤田、
竹本、寺田、佐野
中川、杉田（計10名、敬称略）



暮らし・コミュニティ・防災意識

防災・非常事態

- * 防災倉庫の活用
- * 防災準備はしておく必要がある！でも、自分のためではなく、相手のためである
- * 自分⇒家族⇒地域⇒国に何か起こったときは、その対処をどうするのかをマニュアル化して、活動方法を完全な形でしておくべき！！
- * 防災倉庫（公園）ごとに人が出会え話せる機会作り→例えば、去年より夏の朝ラジオ体操ラリー（以前、150名の参加有り）

家族・家庭から

- * 人とのつながり、地域、文化、福祉は、やはり家族・家庭からであり、今の国づくりの核家族は全てを壊している！

教育で・・・

- * 家、町、市とのつながりについて義務教育に取り入れて、子供に教える

人のつながり・参加

- * 地域の集まりへの積極的な声かけ
- * 気軽に集まる機会を増やし、人とのつながりを大切にしたい
- * 人のつながりを深める場をつくる（公園などの活用）
- * みんなで活動！みんなで参加！

若い人の参加

- * ボランティアの参加者（特に若い人）を増やす方法を考える！（ポイントなど）
- * 若い人の地域社会に対する協力的性の促進
- * 高校生、大学生も参加できる町づくり！「芦大」も参加して！
- * 中学生、トライやるウィークの活用

- * 新しい人も参加しやすいだんじり祭をつくっていく！

健康・福祉・医療

ウォーキングしてる人を活用！

- * 町あげでのウォーキングマップづくり！面白い道いっぱいあるよ！（魚屋道など）

住まいとまちなみ

移動

- * 町並み、町づくりは全てのものが移動しやすいように！

マンション

- * マンションが増えすぎた！規制を厳しく！！

まちなみ

- * 古い街並みは戻らない・・・せめて、残すことができる文化を考えたい

にぎわい・文化

- * 市場がなくなり、商店も賑わいが無い・・・

にぎわいづくりの工夫

- * 個人商店が集まって、宅配サービスの組織をつくることはできないか
- * 地域マネーなどの活用

その他・行政

- * 行政は、町づくり（都市計画他全般）の考え方について見直していないといけない！

参 考 資 料

当日配布プログラム等

第1回 芦屋市 震災復興10年市民ワークショップ

あなたにとっての震災復興とは

◆日 時：平成16年8月〇日（土）〇：〇～〇：〇

◆場 所：芦屋市役所 分庁舎 2階 〇〇〇室

◆プログラム

ステップ1：はじめに

- 9：30 ・あいさつ
(20分) ・趣旨および経過説明
・本日の流れの説明



ステップ2：同じテーブルの参加者を知ろう！

- 9：50 ・2人組になり、『他己紹介聞き取りカード』を使って、相手にインタビューをして、
(20分) お互いのことを知り合います。
・インタビューした人のことを、グループのみなさんに紹介します。(他己紹介)

ステップ3：震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること

- 10：10 ①グループに分かれて、震災10年で変わったと思うこと、感じることについて、
(50分) 話し合います。
*暮らし・コミュニティ・防災意識について
*健康・福祉・医療について
*住まいとまちなみについて
*にぎわい（商業）・文化について
*その他
②また、震災復興の過程で生まれたと思う、新たなものやこと、動きはありますか？

休 憩 お茶を飲みながら、グループで発表者を決めます
(5分)

ステップ4：グループ発表

11：05 ステップ3で話し合われたことを、各グループごとに発表します。
(20分)

ステップ5：おわりに

11：25 ・次回のお知らせ
(5分)

11：30 終了予定

第2回 芦屋市 震災復興10年市民ワークショップ

芦屋市の震災復興10年を振り返って

～まち・人・くらしの活性化に向けて、将来に活かしていくべきこと～

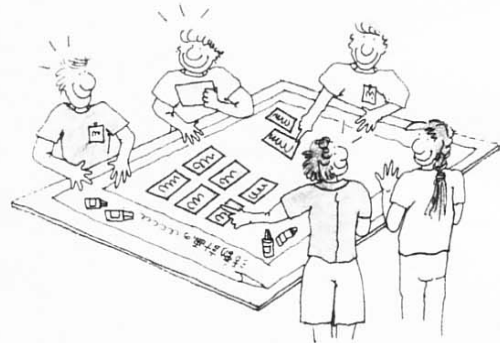
◆日 時：平成16年9月11日（土）14：00～16：30

◆場 所：市民センター 401号室

◆プログラム

ステップ1：はじめに

14：00 ・あいさつ
(10分) ・本日の流れの説明



ステップ2：前回のふりかえり

14：10 ・山手中学校区、精道中学校区、潮見中学校区のそれぞれの地域で出された『震災復興10年をふりかえって、思うこと・感じること』についてふりかえります。
(15分)

ステップ3：芦屋の“まち・人・くらしの活性化”のためにはこんなことが大切、必要！

14：25 各グループで、簡単に自己紹介をした後、各地域で出された意見もふまえながら、芦屋の“まち・人・くらしの活性化”（将来、芦屋をこんなまちにしたい、芦屋でこんな暮らしがしたい）に向けて、大切だと思うことについて話し合います。
(70分)

その時、前回取り上げた『暮らし・コミュニティ・防災意識』、『健康・福祉・医療』、『住まいとまちなみ』、『にぎわい（商業）・文化』のテーマごとに話し合ってください。また、震災復興の過程で生まれたと思う、新たなものやこと、動きのなかで、大切にしていきたいというものがあれば、話し合ってください。

休憩 お茶を飲みながら、グループで発表者を決めます
(5分)

ステップ4：グループ発表

15：40 ステップ3で話し合われたことを、各グループごとに発表します。
(20分)

ステップ5：全体で意見交換

16：00 各グループの発表を聞いて、全体で意見交換をします。
(20分)

①各グループの発表を聞いて、あるいは第1回目に参加しての感想、または補足したいこと
②いろいろ出された意見の中で、これから特に大事にしていきたいと思ったこと

ステップ6：おわりに

16：20 ・本日のまとめと今後のスケジュール
(10分) ・あいさつ

16：30 終了予定



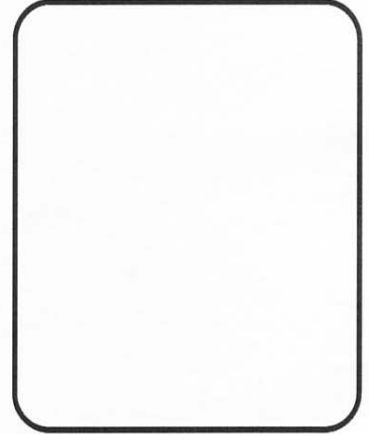
他己紹介 聞き取りカード



お名前は



現在のお住まいは



似 顔 絵



現在のお住まいへ至る経緯は



震災前の芦屋で気に入っていたことは



この10年間で振り返って一番印象に残っていることは

市民ワークショップ

発行日 平成16年9月

発行 芦屋市総務部企画課

〒659-8501 芦屋市精道町7番6号

TEL(0797)38-2009 FAX(0797)31-4841